

～臨床情報・検体の研究利用に関するお知らせ～

『研究課題名 全身麻酔下心臓外科手術患者における体外循環後の凝固機能に及ぼす代謝性アシドーシスの影響：後方視的研究』

研究機関名 東邦大学医療センター大橋病院

研究責任者 麻酔科 職位・氏名 教授・小竹良文

【試料・情報の利用目的】

心臓外科の手術では体外循環中には血液が凝固する機能を抑える必要がありますが、体外循環が終了した時点で血液が凝固する機能を回復させる必要があります。このような管理は主として麻酔科医が担当しています。体外循環後の凝固機能を回復させ、出血を止めるためには患者さんの血液中にあるフィブリノーゲンというタンパク質と血小板という血球成分が重要な役割を果たしています。血液が酸性に傾くとフィブリノーゲン濃度が低下し、止血機能が不十分になる可能性があると言われていています。東邦大学医療センター大橋病院麻酔科では、心臓外科の手術中に血液が酸性に傾く現象によってフィブリノーゲン濃度が影響を受けるかどうか、を明らかにすることを目的として本研究を計画しました。

この研究で得られる成果は、体外循環後のフィブリノーゲン濃度を維持し、出血量を減らすこと、輸血量を減らすことにつながります。

【他機関への提供】

他機関への提供は行いません。

【研究に用いられる試料・情報】

本研究では試料は用いません。

情報として病歴、手術に関する情報、手術前後のフィブリノーゲン濃度、血小板数、その他血液凝固機能検査結果、血液の酸性度などガス分析の結果、等を用います。

研究に利用する情報は、患者さんのお名前、住所など、個人を特定できる情報は削除して管理します。また、今回の研究で得られた成果を、医学的な専門学会や専門雑誌等で報告することがありますが、個人を特定できる情報を報告・公開することはありません。

【試料・情報の利用または提供を開始する予定日】

2025年1月より利用を開始します。

【試料・情報の提供を行う機関の名称及びその長の氏名】

該当しません。

【試料・情報の取得方法】

対象者：2012年5月～2024年4月までに東邦大学医療センター大橋病院

麻酔科の管理のもとで、全身麻酔下に心臓弁、冠動脈、または大動脈の手術を受けた方およそ1000名の方

方法：診療録(カルテ)から抽出したデータを解析します。

【研究組織】

代表施設名: 東邦大学医療センター大橋病院麻酔科 研究代表者: 小竹良文 役職: 教授
この他、東邦大学医療センター大橋病院麻酔科の助教 5 名で構成します。

【利用する者の範囲】

東邦大学医療センター大橋病院麻酔科、小竹良文および助教 5 名が利用します。

【試料・情報の管理について責任を有する者の名称】

東邦大学医療センター大橋病院麻酔科、小竹良文

本研究に関してご質問のある方、情報を研究に利用することを承諾されない方は、2025 年 4 月 30 日までに下記へご連絡下さい。ご家族、御親族、法定代理人の方からのお問い合わせ、申し出にも対応します。申し出のあった方の試料・情報は、利用や他の研究機関への提供を行いません。その場合でも、患者様に不利益になることはありません。

【連絡先および担当者】

東邦大学医療センター大橋病院 麻酔科

職位・氏名 教授・小竹良文

電話 03-3468-1251 内線 3536